

第5回 学校関係者評価委員会

日時：令和7年9月25日（木）13：30～

参加者：外部有識者 別紙参照

学校 利田学校長 穂田理事 森副学校長 中山事務長 俵内（書記）

森副学校長より

学校の学生の概要を伝える

今年度の入学生15名であり、校則を緩めた（私服自由・電子テキスト）

施設環境もネット・防犯カメラ・トイレのウォシュレット

<各委員からのご意見および質問事項など>

◆有識者

学生状況の中の休学者5名の理由はどのような理由でしょうか。

◇学校側

休学理由は

基礎実習が不合格になり先修条件から留年となったため

クラスメイトとのトラブル

時間数不足から未履修

その他にも普段の授業態度の悪さや時間数を計算して休み、学力もかなり低下している現状がある。

◆関連施設からの意見

採用試験の時に成績証明書の中に欠席時間が多いのに、休んでいないと本人が嘘をつく。そのような人は採用していない。誠実さを求めているため。学生に就職試験で嘘をついてもばれると伝えてはどうか。例え留年している学生でも「1時間時間数が足りず留年した。自分のせいで反省しそこからは、休んでいません」と言える学生は採用している。

◇学校側

学生は、指導を受けることが苦手な様子で、さまざまな指導に対して受け入れることが不得手の傾向である。

◆関連施設からの意見

看護師は給料をもらっている立場であるが、新人教育は大変です。しかし、半年ほどすると、顔つきも変わってくる。学校は授業料をもらっている立場なので、とても大変だと思う。

◇学校側

保護者にも協力を求めているが、積極的に受け入れてもらえない現状がある。

◆地域からの意見

看護師としての厳しさをわかっている人や卒業生に実態を話してもらう。今年度の入学生が15人というのはとても残念なことで、原因をしっかりと分析する必要がある。

地域の子育てサロンに実習に行っていて、ボランティア（小児看護学実習）も喜んでもらえています。

学生の地域貢献は口コミで広がるので、継続すると良い。

◆関連施設からの意見

今年初めての新カリキュラムの卒業生ということですが、新人看護師の4名は、皆で助け合い頑張っています。

◆卒業生からの意見

所属する病院は、実習の受け入れはしておらず、新卒者の採用もありますが、これまでの話を聞き「看護師になりたい」と本当に思って入学しているのか疑問に思う。どうすればわかってもらえるのかと思う。党员でも「やっぱり看護師じゃなかった」と離職していく人もいる。

◇学校側

現在、看護専任教員研修会に参加している講習生に身だしなみのことについて尋ねると、看護協会では厳しく指導はない、講師の方の中には、茶髪で看護が変わることもないという意見もあり、講習生に対しても茶髪については指導していないとのこと。身だしなみ基準も変えていけないのか。

◆関連施設からの意見

所属する病院も身だしなみについて、少し緩めました。髪色10番。電子カルテのIDを今後学生1人ずつにIDを渡し、万一他の患者の情報を見た場合は、学校自体の実習も取り消しにするぐらい厳しくすべきか今後検討していくこととしています。

◆有識者からの意見

看護学校での学習に対する姿勢は、高校生の時の指導がとても緩い傾向が影響しているように思う。今の学生は就職に困らない。医療系大学卒業しても100%就職しない。学生指導をするには保護者も一緒に教育す

ることに目を向けていただくことが必要ではないか。高校の進路指導の先生から、学校を休むことについては面接でも聞かないでほしいと言われる。

◇学校側

学校訪問をしていく中で、コロナ以降、高校生もよく休むようである。

◆関連施設

新卒者の中で、入職して職場になじめず、適応障害という診断書を提出し、休職する看護師もいる。果たして、職場復帰をどのように指導していくことで復帰できるのかが心配である。病院においても新人看護師への指導が難しく、指導したことで病気にさせられたと親族から言われるような事例もある。

◇学校側

学校は定員割れの状況ですので、少しでも学校の受験をしてほしいと思うのですが、病院で看護師になりたいという社会人の方を推薦はしてもらえないのでしょうか。

◆関連施設

子育てをしている母親にとっては、経済的な問題もあり、全日制の学校に通いながら生活していくことは難しいようである。

◇学校側

看護学生に対して、病院側から奨学金を出していないのでしょうか。

◆関連施設

病院も以前は奨学金を出していましたが、3年も経たないうちに退職し、働いてもらえないことが続いたことで奨学制度をやめた経緯がある。現在はキャリアアップのためにお金を使っている。

◇学校側

専門学校の卒業生と大学の卒業生では、就職後にどのような違いがあるのでしょうか。

◆関連施設

大卒者は、知識が豊富で素晴らしい。しかし、就職後もeランニングや、学習コンテンツもあり、努力する新卒者は大学、専門学校生も変わらず、努力し伸びている。

◆有識者

過去に専門学校の報道などがあり、専門学校は厳しいなどのうわさが広まったことなども入学に対し躊躇している傾向もある。

◇学校側

最近、若者のタトゥーが増えているのですが、病院の看護師さんなどはどうのような状況で、タトゥーは禁止しているのでしょうか。

◆関連施設

今は特に就業規則にも書かれていないのですが、今後サービス規定に入れていきたい。だんだんエスカレートするので。

また、最近では性同一性障害の職員もあり、更衣室の問題もある。ドレッドヘアーや男性の化粧など考えないといけないことは多くある。

◇学校側

今回のご意見を参考に、今後の学校運営や教育活動に活かしていきたい。

令和6年度の自己点検・自己評価は、令和7年4月から7月にかけて、教員8名で実施している。今回実施した教員の経験年数の平均が、8.2年である。教育歴が3年から13年とばらつきがあるが、10年以上の教員が3名で、比較的経験年数の浅い教員の構成である。昨年は、教員が11名いたが、現在9名で1名が教員養成講習会に参加している。当校は、実習グループに1名の教員が担当するので、現在の状況としては、1年生・2年生への学生担当教員も実習指導に出ている状況で学生指導が難しい状況にあるのが現状である。

今回、実施した自己点検・自己評価の結果から学生支援や教育環境、学生の募集と受け入れ、財務や法令等の遵守が、昨年の平均値を上回っている。相変わらず、Ⅷの財務については低値である。

I. 教育理念・目的・育成人材像

本校の設立趣意は、大阪府南部地区において、広く医療・福祉に貢献し、新しい時代に対応できる人間性豊かで優秀な看護師の育成を目指すことを目的に設立されている。③理念等の達成に向け特色ある教育活動への取り組みや、④の社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱くことが昨年より低下している。令和6年度は、新カリキュラムの教育活動が3年間を経過しての自己点検・自己評価であり、卒業生の学生生活等にも影響があるのではないかと考える。たとえば、実習時間の短縮に伴う、対象理解からの臨床判断能力の低下から、全般的に知識面が浅くなる傾向などが考えられる。また、高い倫理観を持つことなどは、教科外活動などからも習得することができる。ところが、教科外の意義に対する理解の不足からか参加率が少なく、潜在的カリキュラムとしての到達が理念等の達成に活用できなかったことなども誘因と考える。

II. 学校運営

全体的に昨年度より低下している。①から③は、周囲の専門学校の募集停止や社会の少子化傾向から、専門学校が存続できるかの危機的状況にある中で、当校として具体的な事業計画が定めていないことや、設置法人の病棟削減等の組織運営が不安にあり、1.9点と低値を示しているように思える。しかし、④、⑤では、教員講習会への参加者が1名いることで組織の整備をしようとするのが3.5点となっているものと思われる。⑦については、令和7年度から、学校IT化の整備や学生の電子テキストの導入等の情報システム化への取り組み、業務の効率化を図っていることで少し昨年より高くなっていると考ええる。

III. 教育活動

教育活動については、大きく変動はない。⑤のキャリア教育については、特別講義などで学生のスマホの取り扱いなどの現状の問題に対して教科外活動として行った。献血などのセミナーを通して感性を深めることを意図するが、学生にとっては興味関心が乏しいのか受講に対して消極的な学生がいることなども低値の理由ともいえる。しかし、献血への参加者が23名いた。教員の資質向上への取組

みでは、教員も教材の工夫などができるように同じ教科を続けてできるようにするが、実習などでの時間に重きを置く当校にとっては、教材作りなどの時間が持てることができないことで低値でもある。

IV. 学修成果

6年度の国家試験合格者の就職率は、100%である。不合格者も1名を除き、就職内定先で看護助手として働いている。内定が取り消しになり、就職できなかったが、現在アルバイトに入っている。資格・免許取得率の向上としては、教員が個別の対応や模擬試験対策などを実施するように働きかけている。卒業生が就職している看護部長さんへのあいさつの時や施設のお便りをいただき卒業生の状況を確認することができている。

V. 学生支援

昨年と大きく変化することはない。令和6年度の退学者は3名で、1名は休学からの退学であった。他の2名は、1年入学後にクラスとなじめず退学し、もう一人は進路変更で2年次での退学であった。退学者への支援は、家族と相談するように時間をかけて焦って辞めることがないように支援している。昨年は、近隣で働く実習施設の卒業生に来校していただき、今の就職先のことや学校生活での国家試験への取り組みなどについて話し合いが持てる機会を設けた。

VI. 教育環境

① の教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具などでは、毎年教材用具を請求しつつ整えられていることや、冷暖房の空調設備も整えることができ高値となっている。学外などの実習は整備することができているが、インターンシップや海外研修などの実施体制はできていないことから低値である。安全管理体制は、委員会活動として安全管理委員を設けて、教員と学生が中心となって防災組織体制等はそれぞれが自覚できるようにしている。学内に安全管理体制の整備では、防犯対策などが必要であることから、防犯カメラの設置も今年の8月に行った。

VII. 学生の募集と受け入れ

令和6年度の募集については、学校訪問、予備校などにも募集に出かけたが、応募者が激減し、定員を満たすことができなかった。次年度からは、受験者を増やすように、早い時期から高校の進路指導の先生や予備校の先生にも出向いて学生募集の依頼を行うことが肝要と考える。また、従来の学校説明会も重要だが、在校生に卒業した高校へのピーアールも兼ねて高校生にありのままの学校生活の状況などを話す機会を設けて、進路指導の先生との直接面接が効果的であると考ええる。

VIII. 財務

相変わらず財務に関する評価が低値である。ただ、昨年度より教員が1年間長く在籍する中で、財務の管理に対する関心はあるように思える。その結果が、昨年度より高値を示していると考ええる。学生の応募者数の減少や定員割れによって財務に関する関心も増えることも高値の要因と考える。

IX. 法令等の遵守

法令や専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営や学校が保有する個人情報保護に関する対策の実施しているでは 3.2 と高値である。④の自己評価結果を公表しているでは、私学課からの指摘もあって公表を失念していた。そのため、2.6 と低値である。

X. 社会貢献・地域貢献

令和 6 年度は、岸和田市内に日赤の施設ができたこともあり、社会貢献の一環でもある学生の献血活動の取組みを実施した。少ない人数であったが、献血活動には 23 名が献血活動に参加し、社会貢献ができたこともあり 2.5 点ある。

全体を通じて

今回の自己点検・自己評価の内容を受けて、

今年度からは、教員の中で自己点検・自己評価の会議を行ってからのこの評価委員会を実施する 1 年でもあった。ところが教員の人数が減少したことで、学生指導などで評価委員会も形式的だけのものとなった。学校運営としては、学生数の確保が最大の課題である。教育活動としては理念にもあるようにこの大阪の南の地域に優秀な看護師を売するという使命が全うできるような教育活動専念することが必要である。

カリキュラムの教育課程では、講義が実習にも反映できることを期待していたが、事前に取り組む学習を活かすことができず、受け持ち患者の疾患の理解に時間を要し、対象者に必要な看護への実践に対する個別性よりも、どの対象にも同じような援助になりがちであった。

教科外活動では、宣誓式等の参加には宣誓式を迎えた学生等は消極的な参加になっているのが現状である。交流会等への参加としては、卒業生のアンケートにもあるように、場所や内容に対する不満が強かった。今後は、学生の興味関心ある活動への取組みに転換する時期でもある。

今後は、委員会活動で話し合い、学生からの意見にも耳を傾けながら、教育活動に梨組んでいくことが必要かと思う。

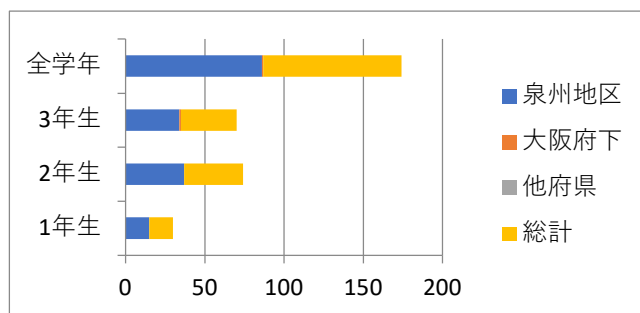
方向性

1. 自己点検・自己評価委員会を行い、他の教員にも自己点検・自己評価の必要性を認識できるように働きかけていきたい。
2. 教科外活動などは学生が積極的に参加できるように学生の意見も反映しながら、また決まった活動に対しても必要性の説明をしながら計画し実施する。
3. ボランティア活動等の紹介や献血なども社会貢献や地域貢献であることを促し、学生に協力を求めていくようにする。
4. 当校の教育理念をもう一度振り返り、教育の方針などを含め、学生に応じた教育や教材の内容も含め、学生が意欲的に臨む教育ができるよう考え、教員も疲弊することがなくなるような教育活動を考える。

5. 国家試験に合格できるように、自己学習などの時間の活用についても学生に応じた支援体制の構築を図る。
6. 入学生の応募を増やしてように、高校訪問などへの参加愛構成にも協力を求め営為の確保に務める。

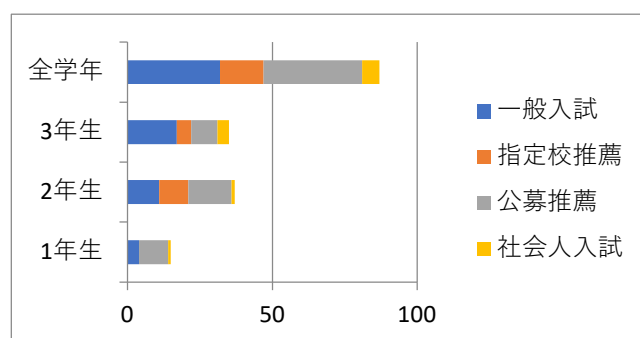
住所地別

	1年生	2年生	3年生	全学年
泉州地区	15	37	34	86
大阪府下	0	0	1	1
他府県	0	0	0	0
総計	15	37	35	87



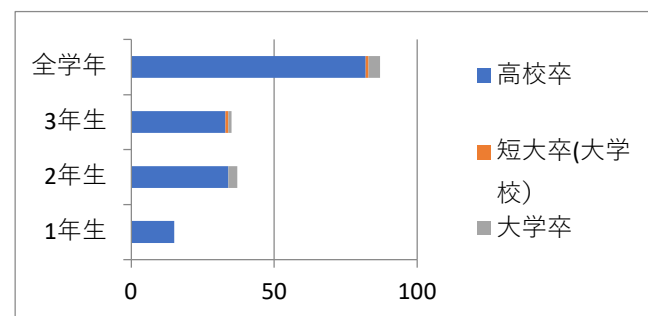
4. 入試選抜方法別

	1年生	2年生	3年生	全学年
一般入試	4	11	17	32
指定校推薦	0	10	5	15
公募推薦	10	15	9	34
社会人入試	1	1	4	6
	15	37	35	87



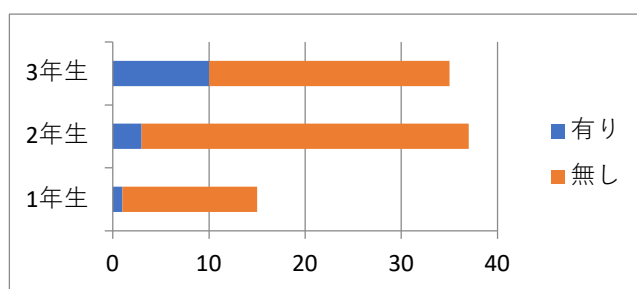
5. 学歴別

	1年生	2年生	3年生	全学年
高校卒	15	34	33	82
短大卒(大学校)	0	0	1	1
大学卒	0	3	1	4
総計	15	37	35	87



6. 職歴の有無

	1年生	2年生	3年生	全学年
有り	1	3	10	14
無し	14	34	25	73
総計	15	37	35	87



7. 子どもを養育している学生数

	1年生	2年生	3年生	全学年
有り			2	8
無し			33	70
総計			35	78

